

# 「人間サイエンスの会」最近の会合と予定

平成18年11月28日

本会は**超党派の国会議員連盟**で主として**人間の潜在的能力**について研究・議論する会です。

**国会議員以外の方々も**問題が無ければご参加頂けます。**要 事前申込 (3日前までに本欄最下の連絡先へ)**：ご氏名、所属、肩書、住所、電話、FAX、Eメール、ホームページ、紹介者・同連絡法を。特別な場合以外はお返事しませんので、議員会館受付横の階段下に**本紙持参**し開演**15分前までに**ご集合下さい。

定例会合は原則として、**毎月第3木曜日**午後3時～5時となっておりますが、国会等の都合で、**日時場所が変更になることがあります**ので、ご確認の上ご参加下さい。

会 長：衆議院議員 山本 有二 事務所 (232号) Tel 03-3508-7232 Fax 03-3592-9069

幹 事 長：参議院議員 北岡 秀二 事務所 (236号) Tel 03-3508-8236 Fax 03-5512-2236

事務局長：衆議院議員 宮下 一郎 事務所 (722号) Tel 03-3508-7272 Fax 03-3502-5059

担当秘書 今井 省吾

世話人代表：山本 幹男 国際総合研究機構 <sup>IRI</sup>(元 放射線医学総合研究所室長) 携帯 090-9232-9542

世話人(IRI)：企画・会場 河野貴美子、向井俊博、北川壽昭、飯塚真佐恵、

当日受付 小上馬香里、菅原恵、 事前準備 古谷裕子

**議員以外の方連絡先(IRI)** 山本幹男 ◆E-mail [ns@a-iri.org](mailto:ns@a-iri.org) Fax 043-255-9143, Tel 090-9232-9542

**会 費** 会員 (国会議員)・準会員 (その他の方で入会を認められた方) 以外の方は、**2,000円を当月の一般会費**として申し受けます。 準会員は年会費12,000円です。

7月、8月 夏休み

- ・ 第78回会合 平成18年 9月21日(木) 午後3時～5時 衆議院第一議員会館 第1会議室  
講 師 善塔 晃氏 空間環境研究所 所長  
演 題 「現代に甦る古の秘術」
- ・ 第79回会合 平成18年10月19日(木) 午後3時～5時 衆議院第一議員会館 第4会議室  
講 師 落合 正浩氏 タカオカクリニック 院長、 公衆衛生医(産業医など)  
演 題 「「予防医学」はもう古い、次は「元気生活」そのもの」  
—公衆衛生トータルヘルスシステム開発の現場から—
- ・ 第80回会合 平成18年11月9日(木) 午後3時～5時 衆議院第一議員会館 第1会議室  
講 師 久司 道夫氏 クシ・ファウンデーション 会長、イーストウエスト財団 会長  
演 題 「世界平和と健康に貢献する マクロバイオティク」

12月 冬休み

- ・ **第81回会合** 平成19年1月18日(木) 午後3時～5時 衆議院第一議員会館 第1会議室  
講 師 石川 幹人氏 明治大学 教授、日本超心理学会 事務局長、博士 (工学)  
演 題 「超心理学100年間の研究～その成果と問題」
- ・ **第82回 10周年記念会合** 平成19年2月15日(木) 午後3時～5時  
衆議院第一議員会館 1階会議室 (予定)  
講 師 西野 皓三氏 西野流呼吸法 創始者  
演 題 「西野流呼吸法・21世紀のアンチエイジング」  
当会10周年記念パーティー 同日 午後6時～8時 ホテルオークラ ゴールデンスパ  
要予約：福岡歯科事務局 森・秋山・光樹まで 会費 全員当日1万円  
Eメール：[i-meitok@ja2.so-net.ne.jp](mailto:i-meitok@ja2.so-net.ne.jp) 電話：03-3664-3690, Fax:03-3667-4848
- ・ 第83回会合 平成19年3月15日(木) 午後3時～5時 衆議院第一議員会館 1階会議室 (予定)  
講 師 未定
- ・ **第84回会合** 平成19年4月19日(木) 午後3時～5時 衆議院第一議員会館 1階会議室 (予定)  
講 師 廣川 信隆氏 東京大学 教授、医学部長、 医学博士  
演 題 「生命の要、ミクロの運び屋、分子モーター；最先端生命科学の成果と推進方策」
- ・ 第85回会合 平成19年5月17日(木) 午後3時～5時 衆議院第一議員会館 1階会議室 (予定)
- ・ 第86回会合 平成19年6月21日(木) 午後3時～5時 衆議院第一議員会館 1階会議室 (予定)

7月、8月 夏休み

# 第 81 回 人間サイエンスの会 講演

日時 平成 19 年 1 月 18 日 (木) 午後 3 時～5 時

場所 衆議院第一議員会館 第 1 会議室

演題 「超心理学 100 年間の研究～その成果と問題」

いしかわ まさと

講師 石川 幹人 氏 博士 (工学) [ishikawa@kisc.meiji.ac.jp](mailto:ishikawa@kisc.meiji.ac.jp)

明治大学情報コミュニケーション学部 教授、日本超心理学会事務局長

内容 19 世紀末から 20 世紀初頭にかけて全盛期となった「心霊研究 Psychical Research」が、当時確立されつつあった科学的方法論を取り入れて現代化し「超心理学 Parapsychology」が形成された。実験的超心理学の開祖であるライン教授が目指した目標のひとつは、科学的な手法で超能力の存在を明示することであった。21 世紀を迎えた今日、その目標はすでに達成されたと言ってよい。ライン教授が思い描いたように**厳密な証拠を積み上げるのに成功**しているのである。

ところが一方、超心理学は、ライン教授の期待に反して、学問分野としての**ステータスを確立するのに失敗**している。その原因を分析すると、超心理学を含む科学や社会自体の問題につきあたる。第 1 に、頻度が小さく要因が複雑な現象を扱う科学的方法論が未熟であること、第 2 に、科学者社会における政治的問題があること、第 3 に、人々が超能力に対して興味をもって接近しつつも、恐れを抱いて排斥するという、二面的態度をとることである。

第 1 の問題は、人文社会科学に普遍的な問題であり、自然科学偏重になりがちな**科学振興政策**の問題と通底している。第 2 の問題は、その時代の主流科学が既得権を主張する構造的な問題であり、科学者への報酬システムとからんだ、**科学研究政策上**の問題である。第 3 の問題は、人々が科学的方法とオカルト信奉の区別をよく理解せず、ときに混同する問題とかわっており、**科学教育政策上**の問題としてとらえることができる。

講師紹介 1959 年、東京都生まれ。 <http://www.isc.meiji.ac.jp/~ishikawa/>

東京工業大学理学部応用物理学専攻卒業。同大学院物理情報工学専攻、松下電器産業 (株) マルチメディアシステム研究所、(財) 新世代コンピュータ技術開発機構研究所などを経て、1997 年に明治大学文学部に赴任。2002 年デューク大学客員研究員として、故 J・B・ライン教授が設立したライン研究センターに滞在して、超心理学の歴史と現状を学ぶ。帰国後、メタ超心理学研究室を主宰し、超心理学研究の基盤研究を始める。現在、超心理学の哲学的背景、予知的認知現象の実験などを研究。

業績：『心と認知の情報学～ロボットをつくる・人間を知る』(単著、勁草書房)、『入門・マインドサイエンスの思想～心の科学をめぐる現代哲学の論争』(共同編著、新曜社)、『心とは何か～心理学と諸科学との対話』(共同編著、北大路書房)、『人間と情報』(単著、培風館)、『体感する統計解析』(単著、共立出版)、『意識の＜神秘＞は解明できるか』(C・マッギン著、共訳、青土社)、『ダーウィンの危険な思想』(D・デネット著、共訳、青土社) など、その他論文や特許多数。東京大学工学部内元岡記念会より元岡賞受賞、情報文化学会より産業部会賞・学会賞受賞。

平成19年1月18日（木）午後3時～5時

「超心理学100年間の研究～その成果と問題」 石川 幹人 氏

## 追加説明

### 超心理学にかんする7つの誤解

1. 超心理学はオカルト研究である  
⇒ 科学的方法論にもとづいて公共性の高い研究を行っており、神秘主義とは無縁である。
2. 超心理学者は超能力の存在を信じている  
⇒ 信奉は棚上げにして、経験的事実にもとづいた研究を行なっている。超心理学者のなかには、懐疑論者も多くいる。当然、霊魂の存在などを前提とすることはない。
3. 超心理学はずさんな実験をしている  
⇒ 発見された問題点については対処した実験が行なわれ、現在は他の分野以上の高度な厳密さを誇っている。一部の批判者こそが、古い問題点に注目したずさんな論評をしている。
4. 超心理学の扱う現象には再現性がない  
⇒ 注意深く管理した実験を十分な回数おこなった場合には、安定した統計的有意性が得られている。要因の統制が難しい心理-社会的現象であると考えれば、再現性はあるほうだ。
5. 超心理学は100年間の研究にもかかわらず成果がない  
⇒ 下降効果、山羊・羊効果、実験者効果、隠蔽効果など、心理-社会的効果が多く判明している。物理的性質は解明されていないが、この分野には十分な人材や資金が投入されていないので、当然とも言える。
6. 超能力があるとなると科学が崩壊する  
⇒ 科学は、事実を解明する方法のことであるから崩壊しない。崩壊するとすれば、現在の主流科学が想定している世界観であるが、科学の歴史ではこれまでも世界観の改訂はあった。
7. 超能力があるとなるとカルト宗教を擁護してしまう  
⇒ 超心理学がすすめば、超能力の限界が判明するなど、熱狂的な信奉に歯止めがかかる。超能力はありえないなどとして、ほうっておくほうがむしろ危険である。

以上